

富士見市立本郷中学校だより

学校教育目標



よく考え、学び、求める生徒
豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
心身を鍛え、勤労と体験を重んじる生徒

「夢と感動と思いやりがあふれ、誰もが成長を実感できる学校」 第2号

顔を隠す努力・顔を見せる努力

校長 上堀 護



2年生「茶道体験学習」(5月14日)

「人生は、人を知って自分を発見しつづける旅路^{たびじ}である。そのためには、まず人と会わなければならない。」（長谷川鏡次）

高校時代、ある書物でこの一節が目にとまり、私は「出会いの大切さ」を学ぶことができました。振り返ってみると、素晴らしい出会いによって、ここまで歩めたのだと思っています。

しかしながら、その出会いが、昨年から大きく変わってしまったような気がします。マスクで顔の半分が隠れ、初対面の人物の顔と名前が一致しにくくなってしまったのです。言うまでもなくマスクは、一昨年の冬から世界に広がった新型コロナウイルス感染症から身を守るための効果的なアイテムです。このおかげで飛沫感染を防ぎ、大切な命を守り、医療現場を支えることができているのですから。

それを十分理解してはいるのですが、人と人との出会う場では、ある種のもどかしさを感じています。それは「お互いがわかり合えているのか」という不安です。

顔が果たしている役割は何でしょうか。目・鼻・口など五官や呼吸・摂食器官が集まり生命維持に必要な身体の一部であると同時に、口からの音声言語、表情筋による喜怒哀楽などの感情表現を担っている場所です。英語の mask（仮面）は、^{ベルソナ}personaとも言い、人物を意味する ^{パーソン}person の語源です。顔が果たしている役割は大きいといえるでしょう。その半分以上を隠しながら、私達はコミュニケーションを取らなければならないのです。

学年開きの本校の教室には、生徒一人一人のマスクなしの顔写真が掲示されています。お互いの理解を深めたいという各担任の願いの現れです。その他「自己紹介カード」や生活記録ノート「タイムくん」での毎日のやりとり、授業での意見交換や課題作文、振り返りシートなど教員⇄生徒、生徒⇄生徒の相互理解の場をできるだけ多く設定しています。お互い顔の全部が目に見えない分、心が通じ合うよう工夫しているのです。

1年生は今月21日に県内日帰りの校外学習を通し、自分の役割を果たすことで、お互いの理解と可能性を発見できればと願っています。また、6月2日からは生徒との二者面談期間を全学年で設定し、生徒一人一人の気持ちや悩みを聴くことを通して生徒理解と支援を行います。6月11日の開校記念日には千種^{ちくさ}ゆり子氏の記念講演を開催します(裏面参照)。

感染防止のための「顔を隠す努力」、相互理解のための「顔を見せる努力」。どちらも大切なことと考え、今後のGIGAスクール・ICTの活用も見据えつつ、今できることに精一杯取り組み、生徒一人一人の思いや悩みに寄り添うことを通して、次代を担う生徒の可能性を少しでも広げる活動を進めます。ご理解ご支援を賜りますようお願いいたします。